

教14 医療人に必要とされる心の教育(第3報)

○山藤 賢(さんどう まさる)

昭和医療技術専門学校

これまで、本校独自の人間性教育についてその一端を続けて報告してきた。きっかけは、全国から来られる本校を見学いただいた他校の先生方からの多くのリクエストがあったからだが、おかげさまで毎回大きな反響をいただき、学会開催中も終了後もたくさんの先生方から質問をはじめ意見交換をさせていただき、前回の抄録にも書いたが、先生方の興味がいわゆる技術や知識に偏らない心の教育や実践にも高くなっていることを感じ、嬉しく思っている。本校では以前より「全員卒業・全員合格」という理念のもと、入学者全員が進級し、卒業し、合格するための環境創りと学生、教員の関係性創りを大切にしている。そして資格取得は当然のこと、自分自身が幸せになるために、医療人としての生き方を模索する中で、自分と繋がることの大切さ、そこからの他者との関わり、外の世界(社会と自然)との繋がり方について、学校長である私自らが行っているワークや、「臨床哲学人間学」「生命の倫理」「医療人特論」「日本語表現法」などの特徴ある独自の講座について、ここまでの2報でお伝えしてきた。前回の発表時、最後のスライドで、次年度の発表内容につ

いて会場の皆さんに問いを残したところ、ありがたいことに、終了後にたくさんの方から「これを知りたい」というリクエストをいただいた。全てに応えることは出来ないが、今回は、興味の多かった教員に焦点をあて、学生教育に欠かせない、教員としての成人発達理論や人間性に基づいた役割や評価について述べようと考えている。ただ資格を持っているだけでは、教員としての資格はあっても資質はない。そこで自分自身の成長を考えない教員は学生と共に歩むことは難しい。「人間性豊かな医療人」を育成したければ、その指導する教員自身が「人間性豊かな医療人」である必要がある。そのあたりのことを理由も含めて紐解きつつ、我々教員のあるべき姿について皆さんと考えていけるような時間にしたいと思っている。そして、そろそろ継続形式の発表も疲れてきたので、今回をもって私の発表は終わりにする予定である。今年も会場で皆さんとお会いできるのを、そして対話できることを楽しみにしている。